



市政研究会 水谷 進 議員

- 1 新型インフルエンザの現状と今後の対策について
- 2 開かれた学校について
 - (1)「学校支援地域本部」について
 - (2)「地域ぐるみの学校づくり」について
- 3 神戸城の整備と危険箇所について

質問1 市民から発熱についての相談件数と、妊婦など弱者へのマスクの配布は考えていないのか。

答弁1 発熱についての相談件数は、741件である。マスクについては第2波以降の想定の中で自己防衛が基本であるが立場の弱い方などへの配慮については今後議論をしていきたいと考えている。

質問2(1) 現在のボランティアと何がちがうのか。

答弁2(1) 本部事業は、地域コーディネーターを配置し、地域の自立した学校支援体制づくりを調査研究するための、22年度までの国の委託事業である。

質問2(2) 教育長が考える「地域ぐるみの学校づくり」の今後の姿とはどのようなものか。

答弁2(2) 学校地域支援本部による総合的なネットワークと共に学校関係者評価の活動を通して地域ぐるみの学校づくりを進めて参りたいと考えている。

質問3 大変危険と思われる、石垣の膨らみや鳥居、石灯笼などの対策も計画に入っているのか。

答弁3 県教育委員会の指導助言や県下の事例を参考に、安全性の確保に向けて対応していく。鳥居などについては、地元関係者と処分方法を協議した上で対処の方法を図っていききたいと考える。



あくていぶ21 森 喜代造 議員

- 1 新型インフルの対応と対策について
 - (1)対策本部と検討委員会の内容は
 - (2)発熱外来の支援について
 - (3)感染予防策と今後の対応について
 - (4)学校の対応について

質問1(1) 合同会議の内容とマニュアルの内容についてどのようなものを作成したのか。

答弁1(1) 合同会議では、各課で業務継続対応シートの作成を決定した。総論を付け加え、業務対応マニュアルとして作成し、11月頃に公表したい。

質問1(2) 医療機関や通訳者の人件費の支援は。

答弁1(2) 本市では支援しないが、発熱外来への保健師、看護師の派遣要請があれば協力していく。

質問1(3) 個人のできる予防策や周知方法について。

答弁1(3) 予防策や発熱症状があった場合の対応などを記載したチラシを全戸に配布し、また市の広報やホームページ等でも周知している。タミフルやリレンザも確保しており、消毒液は市の施設に設置する。発熱外来は、発熱相談センターの依頼により、鈴鹿中央総合病院と鈴鹿回生病院で対応している。

質問1(4) 手洗い場に消毒液は設置されているのか。また、各学校への周知と今後の取組について。

答弁1(4) 各学校園に薬用石鹸を設置している。月1回校長会で保護者への適切な対応や指導助言をしており、学校から保護者に対して周知している。児童の健康観察は担任が行い、教育委員会に報告している。修学旅行や部活の遠征も延期扱いとする。



緑風会 藪田 啓介 議員

- 1 神戸中学校移転後の通学路
 - (1)通学路(案)に伴う歩道整備
 - (2)防犯灯の設置

質問1(1) 神戸中学校新校舎建設検討委員会から6つの要望が出ているが、新通学路案のうち現校舎南館前から水門までの県道沿い水路の暗渠化による歩道・自転車道の整備は可能か。また、西条保育所から北進する市道の歩道整備はどうか。

答弁1(1) 水路沿いの県道は従来から交通量が多く歩行者・自転車利用者の安全を確保し、早急な整備の必要性は認識しているが、県においても公図と現況の相違が著しいため事業化には至っていない。

また、西条保育所からの歩道整備は、鉄道踏切に近接

した交差点等があり、事業化が困難です。なお、一方通行などの交通規制の実施も考えられるが、関係自治会、地権者の皆様の協力が必要である。市としては、市道“のり面”を活用して路側帯を確保するなど現状に即応した安全対策を検討していく。

質問1(2) 集落間の自治会をまたぐ「なわて」の防犯灯設置推進策はどうか。

答弁1(2) 教育委員会では集落間の通学路防犯灯への管理費用(電気代)補助事業を行っている。また、なわて間の防犯灯については補助率を改正した。ソーラー式防犯灯の広報など今後とも防犯灯の設置を推進してゆく。